

中国東北部平和ツアー

731部隊跡の
記念館を見学

その2

川村かつ枝

4日目はデチハルの古いモスクを訪ねました。屋根には草が生え、手入れもされていませんでしたが、建設当時はさぞ美しかっただろうと思える素晴らしい文化遺産でした。今もお坊さんがすんでいて、門の横には肉屋があり、脇にはと殺場がありました。なにしろ殺生が禁じられているので殺せない。でもタンパク質は必要。お坊さんが殺したのなら大丈夫ということでしょう。となつていて、ちよつと宗教色のない私には笑えました。

モスクのあとは旧日本大使館があるという大遊園地へ。遊園地は日曜日ということもあってかおおせいの人でぎわっていました。広い公園のあちこちで社交ダンスを楽しむ人たち、健康遊具で体を鍛える人たち、太極拳をする人達、人工池でボートを楽しむ人、林の中でなぜか鞭で木の幹をたたいてる人もいました。大きな入り口のフリークライミング用の壁もありました。冬はマイナス20度から40度まで下がるというデチハルでは体を動かせるうちに一杯動かしつゝ感じでした。早めの昼食(同じ中華料理でも少し土地によって違いがありました。固い麻布のようなデチハル豆腐、甘いかぼちゃのフライなどが新しい感じでした。)を取って、また重い荷物を引きずって新幹線で5時間、瀋陽に戻りました。駅からレストランへ寄って夕食。ピーナツの煮物が出ておいし

いなあと。そして18:00ホテル着。



瀋陽のホテルではNHKの番組が見られるので、岩手や北海道の大雨被害のニュースに心を痛めつつ、オリンピックの新体操をみたりしながら、湯船につかれる幸福をかみしめつつ、さっさと寝ました。

5日目は、朝からバスで撫順へ。撫順には露天掘りの大きな炭鉱があり、ここでは今も石炭の掘りだしを行っていて、大きな谷のようになっていました。発掘地点まではトロコ列車が走り、積み出しをしていました。なるほど、かつての日本が此処を欲しが

り、無謀にも侵略しようとした気持ちで理解できるようです。

そしてすぐ近くの日本軍が



300余人を虐殺したという天頂山の現場へ。現場には立派な記念館と遺骨の周りを囲う建物が階段で結ばれ、有りませんでした。遺骨は何層にも重なり、10年前に訪れたときはむき出しだったという遺骨はガラス張りとなり、祈りの場の象徴となっていました。慰霊塔もあり、ここはもう自然に手を合わせ、祈りをささげるしかない場所でした。いまなお世界のあちこちで続き、繰り返されてきた大量虐殺。忘れないことの大切さを感じました。

6日目は朝から雨。日本で大雨をもたらした台風のなれの果ての影響で、めったに降

らないという雨の中を9記念館へ。ここの本を広げた形の小さい記念館の奥に大きなのが立て替えられていました。記念館のガイドの方が日本語で案内してくれました。歴史を引き継ぐという中国の強い意志を感じました。

続いて戦犯裁判記念館、瀋陽の故宮を回り、スーパーとデパートで買い物をして、ホテルへ。なにしろすごい人と車で、ラッシュの連続となり、移動につかれました。

最後の瀋陽の夜をゆっくりと過ごし、翌朝はラッシュの前にとホテルを8:40に出て帰途につきました。3本持っていたケーナを一度も吹くことなく、疲れた旅でしたが、有意義でした。

びっくりしたのは旅から戻って、周りに話した時。私も実はハルビンで生まれたという人、兄がハルビン生まれで引き揚げてきたという人と実に

冬の訪れを思わせる肌寒い風が吹く十一月九日(水)に三翠園に於いて温泉昼食会が行われました。当日は八名の参加でこぢんまりとした集まりでしたが、温泉と食事を楽しまし、和気藹々と過ごすことができました。

十時半過ぎから天然温泉(水哉閣)の湯に浸かってさっぱりした後、梅の間にて会食となりました。食事場所は、畳にテーブルと椅子が設えてあり、足腰が弱っているメンバーは快適に過ごすことができました。食事を待つ間、濱田昌俊先生が作成されたスクラップブックをみんなで見せていただき、年齢を重ねてなお旺盛な好奇心を持って、様々な分野の記事を几帳面に整理されていることに敬服しました。

温泉・昼食会
身も心もほっこり

上村文香

身近な多くの人が関心を示してくれた。実は私の父もハルビン奉天(今の瀋陽)で従軍していたと聞いていたので、先日の7回忌で話したら、いとこたちから色々な話が聞けた。中国は身近な大事な国なのだから、もっと仲良くしたいと思った。



まず最年長の濱田先生の音頭でビール、お茶で乾杯をして、上品で美味しいお料理に舌鼓を打ちながら、近況報告を交えて楽しくお喋りに花を咲かせました。そのなかで、多くの会員に高退協の催しに参加してもらえよう、春にはお花見をしてはどうかという提案もありました。実施の際には、こそぞって参加のほど、よろしくお願ひします。

私事です、笑顔で接客してくれたお部屋係が教子で、みなさんに言めていただき、思いました。

三時間あまりの時間のなかで、誰かが喋っているとそこへちゃちゃが入り、話が逸れて大笑いとなるという具合に笑いの絶えないひとときを過ごし、身も心もほっこりした時間を過ごすことが出来ました。

温泉昼食会から

高橋夫妻(上)
島本さん(下)

高退協望年会から

